

校了

## 源姓

## 高

百五拾俵  
五人扶持

## 石原

義家流

足利  
支流

## 家紋

丸に杏葉  
三巴

家傳に先祖は斯波の末属にして三河国石原村に住せしより

東照宮の御時にあたり式部義幸めされて御家人に列しすな

はち石原村にをいて采地をたふ

義幸二子あり長を才右衛門高政

次を八郎左衛門貞純という高政

また東照宮に近侍ししはしは

軍功ありしかは百度右衛門とめ

され三方原合戦のとき討死

す貞純父に繼て奉仕しゆも陣中

主郎清康君に附屬せゆ礼事

あるのち石原村に警居す

## 義幸

石原村を傳領し百度右衛門が子

源三郎某岡崎をいて

東照宮に奉仕し父か采地をなり

其後岡崎三郎信康君に附屬せ

られ事あるの?大久保七郎

右衛門尉忠世にめし預らるへき

のとき病にかかるにより有免

ありて石原村に警居し幾程

なく死す其子茂右衛門高繼又忠

世にめし預られのち長男平右

衛門忠次とともに本多中務大輔

忠勝に預られて上総国

小田喜にありその後越後

村上におもむき忠次は堀

丹後守の家臣となり二男

吉左衛門正次は御留守居の

与力にめし加へられ政成

は忠次三男なりといふ

石原式部

弘治年中三州石原村の居城に在て

東三河の軍勢を集故実の指揮し

永禄年中

東照宮姉川御合戦已前三州のうち筋

目の者御尋の時召出され三州石原村に

て五百石賜

東照宮に拝謁同村に住所々御出陣供

奉○嫡子百度右衛門高政遠州味方原

にて討死の時も御懇の仰を蒙○死

## 高政

石原**百度**右衛門

づんど

才右衛門

幼年より武藝を励

東照宮御近習御殿番○永禄年中三州

一宮合戦に初陣して敵と戦首級得る

こと多し○永禄十三年四月廿六日

東照宮織田家に加勢ありて朝倉と御合戦

あり越前勢の先手朝倉玄蕃允か籠

れり手筒山の城を責るの時先手大将

酒井左衛門尉忠次の旗下に属嶮岨要害

の地を先駆し味方を励し所々の柵を破

堀下まで攻寄此功を賞せられ凱陣の

後名を百度右衛門と賜○元龜三年

十二月廿二日味方原より濱松城に御帰陣

の時甲州の士大将小山田右兵衛尉多勢

にて追駆奉る時百度右衛門高政を初

御旗本の士参拾七人にて防戦し共に

討死す御感状数毎賜しといふ

石原八郎左衛門

五郎作

## 貞純

天正元年遠州濱松城に召され父の

家督三州石原村五百石賜はる旨

東照宮御直に仰下され御殿番○

岡崎殿に附られ近習に奉仕御殿番

逝去後石原村に在て死

## 高繼

石原茂右衛門

天正七年九月十五日

岡崎殿逝去の時父貞繼大久保七郎右衛門

預られへく思召之处病氣に付其をなし

貞純死

高繼幼年なれば七郎右衛門に預られ関東

御入國の後大久保相模守に預られその領

地相州小田原住居○高繼岡崎御譜代たるを

以て成長之上、召出さるへき旨仰付らる候に

より度々奉仕を願○其後本多中務大輔に

預られ其領知越後国村上にて死

以下略